

医療のための光工学の基礎

授業概要

近年、光エレクトロニクス、コンピュータ、ナノテクノロジーなどの著しい進歩が、光を使った医療診断や治療技術に変革をもたらし、医療分野における様々な新しい応用が注目されている。光工学の生命科学の様々な分野への応用に使われている方法や技術について、その原理の基礎を学び、その理解を深める。

担当教員

廣田 秋彦 (主担当)	医学系研究科医科学専攻	神経・筋肉生理学講座	教授
吉田 正人	医学系研究科医科学専攻	生命科学講座	特任教授
大平 明弘	医学系研究科医科学専攻	眼科学講座	教授
長井 篤	医学系研究科医科学専攻	臨床検査医学講座	教授
中村 守彦	医学系研究科医科学専攻	産学連携センター地域医学共同部門	教授
藤井 政俊	医学系研究科医科学専攻	生命科学講座	准教授
佐藤 秀一	医学系研究科医科学専攻	医学部附属病院光学医療診療部	准教授
藤田 恭久	総合理工学研究科総合理工学専攻機械・電気電子工学領域		教授
増田 浩次	総合理工学研究科総合理工学専攻機械・電気電子工学領域		教授
松崎 貴	生物資源科学研究科生物生命科学専攻		教授
山本 達之	生物資源科学研究科生物生命科学専攻		教授

一般目標

1. 生命科学で用いられている光関連技術の基礎となる原理を概説出来る。
2. 光関連技術を医療分野に応用する際、他分野への応用と異なる点について、医療分野ならではの問題となる事項を、具体的に例を挙げて概説出来る。

行動目標

1. 各教育内容の項目ごとに記された言葉の意味を正しく理解し、基礎となる原理を平易に説明出来る。
2. それぞれの技術の医療分野での応用を考えた時、その問題点や従来技術に優る点を概説出来る。

教育内容

1. 講義

光工学の基礎と応用 (藤田, 増田)

光の屈折、反射、吸収、散乱などの基礎原理を学ぶ。さらに、蛍光、光吸収、散乱、回折、干渉などの原理を用いた生物・医療に関する応用の事例を紹介する。また、光を用いた生

体計測技術として、光コヒーレンストモグラフィー（OCT）などの拡散法、干渉法及び分光法の代表的な技術を概観する。

光学的測定法の基本原理（廣田）

光学的濃度測定の基本法則であるランベルト・ベールの法則の臨床検査などへの適用では、実際にはどの程度の吸光度で定量解析が行われており、そのような濃度を用いるのは何故かを知り、各自の標本で吸光による定量解析の実践技術を学ぶ。さらに、蛍光色素を用いた懸濁系における細胞内カルシウム濃度測定で注意すべきポイントを中心に、光学的測定で、あまりに初歩的な事項のため本に記載されることが少ないため、初心者が犯しやすい過ちを主眼とした、測定を実践することを前提にした基礎知識を概説する。

半導体光触媒の基礎（吉田）

抗菌・殺菌、環境浄化などに関連して光触媒技術が医療分野でも盛んに使われるようになってきている。その作用原理の基礎を解説し、医療分野への応用の現状を紹介する。

眼の屈折異常とその矯正法(大平)

屈折矯正には眼鏡とコンタクトレンズが用いられる。白内障手術後の矯正には眼内レンズの移植が一般的となった。最近では老眼に対し、多焦点眼内レンズの開発や二重焦点のコンタクトレンズも普及している。レンズの材料、デザイン、50年近いレンズ開発の変遷などを交え、今後の課題を提示する。

近赤外線を用いた脳血流量測定の基礎（長井）

近赤外線による脳血流量測定の基本となる近赤外線発光・吸収の理論を解説し、さらに、この方法を用いて脳血流量が何故測定できるのか、その理論的根拠を概説する。また、近赤外光イメージング装置を用いて、光トポグラフィー検査の実習を行う。

新しい蛍光剤および造影剤による先端医療（中村）

生命科学研究ではナノ粒子を活用した新しい蛍光剤や造影剤が注目されている。CdSeなどの量子ドット、さらに生体毒性が低い酸化亜鉛または酸化鉄のナノ粒子を利用したバイオイメージング技術の基礎から応用までを解説し、光医療工学研究の現況を紹介する。

可視光を用いた溶質分子吸着測定の実際（藤井）

液体中における溶質分子の吸着過程や吸着量の測定は医療分野ばかりでなく、他の分野においても応用上重要な問題である。両親媒性分子や生体たんぱく質の吸着を例にとり、測定原理から解析法、さらには得られたデータの解釈について解説する。

消化器診療における光工学の役割－光デジタル内視鏡の原理と臨床応用（佐藤）

narrow band imaging 及び autofluorescence imaging 内視鏡の原理とその臨床応用を概説するとともに、デジタル光画像強調システムの臨床応用の可能性について解説する。また、光学医療診療部の光学機器やバーチャル技術の実習を行う。

生体に対する光作用とその医療への応用（松崎）

皮膚疾患等に対するレーザー、intense pulsed light (IPL)、および低エネルギー光照射の効果と作用機序、光感受性物質を用いた治療法（photo dynamic therapy）、光周期によって調節されている概日リズムと生体反応の関係、および皮膚の構造や機能の光を用いた解析技術等について解説する。

分光学の医療応用（山本）

臨床の現場への応用が可能な分光学的手法を、特に近年注目を集めているラマン散乱分光法の原理や応用例などを中心に紹介する。できるだけ実際に行なわれている医療応用の例を積極的に紹介し、分光学の可能性を感じ取れるよう目指す。

2. 実習・機器見学会

分光計測の実習（藤田）

種々の光源の発光スペクトルを分光光度計により測定し、分光計測の基礎を体験する。

医療機器見学会（佐藤）

医学部附属病院で、光学関係の医療機器はもとより、主としてがんの診断に用いる ME（Medical Electronics）関連の医療機器の実際を見学する。

成績評価の方法

講義および実習・機器見学会の出席が共に規定の出席率を満たした学生に対し、その理解度を確かめるレポート（課題は後日別に示す）を課す。その評価は、行動目標の達成度を主眼に行う。